

横暴教師に
性的指導される
体験版

がら堂 / どん丸

♡ 読む前に ♡

高校生を含む18歳未満は閲覧禁止です。

人目につくところでは読まないで下さい。

この話はフィクションです。実在の人物や団体とは一切関係がありません。
ん。

なお、この話は犯罪行為を助長するものではありません。決してマネしないでください。

本書の内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。

Unauthorized copying and replication of the contents of
this book, text and images are strictly prohibited.

♡ストーリー♡

バレー部顧問の巨乳ご指導……………6

部活の練習試合の後、体育用具室で顧問の松山に惨敗した理由はお前のおっぱいが大きいせいだと言われ……………。

♡あなた：巨乳。バレー部主将。松山のご指導が好き。

♡ひやま松山：バレー部顧問。

体育用具室／乳首責め／フェラ／口内射精／ごっくん／素股／中出し

体育教師のブルマ強要ご指導……………11

どんくさいあなたは日常的に体育教師の権田に放課後呼び出され下着無しで体操服とブルマを着せられており……。

♡あなた…巨乳。どんくさい。権田のご指導が好き。

♡権田…ごんだ体育教師。

体育教官室／即ハメ／着衣／ずらし挿入／強制連続絶頂／中出し

♡ バレー部顧問の巨乳ご指導 ♡

「今日負けた理由はわかってるか？」

「連続失点して、そこで空気が重くなって……」

「違う」

あなたは女子バレーボール部の部長である。

運動するには大きな胸は赤いユニフォームで必要以上に大きく目立っており、正面に立っている顧問の松山はいらいらしながらその巨乳をじっと見ていた。

いらいらとはつまり、ムラムラのことである。

今日は他校で練習試合をして惨敗し、部員はその場で解散して松山と

主将のあなただけ片付けのために自分の高校へ帰ってきた。土曜の夕方なので体育館にはもう誰もいない。

体育用具室にボールなどを片付け終わったあなたは桧山の正面で、説教を受けている。

これはいつものことなので、あなたの胸は期待に高鳴りだし始めていた。

「服、上げろ」

「あ……」

「早く」

「……………はい」

普通なら顧問にそんなことを言われて了承するなどありえぬことだが、あなたは慣らされている為、頬を紅潮させて頷いた。

身体のラインがはっきりわかるユニフォームの裾に手をかけて、それを焦

らすようにゆっくりと持ち上げていくと、桧山が血走った目で自分を見ていることがよくわかった。

伸縮性の弱いユニフォームは、大きな胸を通る時、キツイせいで少し手こずるが、頂点を通り過ぎれば、一瞬でぼろんっ♡と白いスポブラに包まれた乳房が溢れ出し、ユニフォームが胸の上にかかる。

「おいおい、乳首の位置がわかるぞ」

「ひゃうっ♡」

薄手のスポブラの上からでもぷくりと膨らんでいるものがわかって、桧山はそれをぎゅむ♡と摘まんた。

それなりに力が入っているが痛さを感じない、ギリギリの力加減だ。

これで、あなたにスイッチが入った。

ご指導してもらえる♡ という、ドスケベスイッチである。

ぐにゅぐにゅ♡ぎゅっぎゅっぎゅっ♡

「あ♡せんせ♡それ、ああ♡」

「まさか、乳首勃たせてるのか？」

「ふああ、ああ♡あっ♡」

「こいつも邪魔だな」

「きゃっ♡」

松山はあなたの胸から手を離すと、スポブラの裾を摘まんで、それを胸の頂点までたくし上げた。

乳首が見えるか見えないかぎりぎりのところでたくし上げるのを止め、ぷにょん♡とスポブラの裾のゴム部分で押し潰されたところから下にはみ出ている下乳をつんつんと突く。

「ブラのサイズ、あってないんじゃないか」

「んん♡」

「乳首はみ出してるぞ」

「そ、それは先生が、あんっ♡」

あなたが声を上げると、桧山は乳首を擦るようになり再びスポブラの裾を掴んで上げ下げした。

そのたびに乳首が飛び出たり仕舞われたりして、あなたはその刺激に善がるしかできない。

「全く、乳首勃たせて、恥ずかしくないのか？」

「ふああんっ……♡」

続

♡ 体育教師のブルマ強要ご指導 ♡

「着替えたな」

「は、はい……」

「下着は脱いだか」

「はい……」

「そこで横になって足を開け」

「……はい」

放課後、体育教官室に来たあなたは、あなたを呼び出した体育教師の権田に言われるがまま制服を脱ぎ、下着を脱ぎ、パツパツの体操服とブルマを履いた。

そして、床に敷かれたマットの上に仰向けで横になって、裏腿を掴んで持ち上げる。M字開脚だ。

躡けられているあなたは、それだけでじゅわん♡と愛液が溢れ出し始めるのを感じた。

運動神経がすごぶる悪いあなたは、厳しいと有名な体育教師の権田に目をつけられている。

権田はあなたのクラスの女子体育の授業を受け持っていて、周りの足を引っ張るあなたを何度も叱り、体育のある日は必ず放課後呼び出した。

ばいんばいんのバストとほっそりとしたウエスト、ぷりっとしたヒップを持ったあなたを執拗に叱る権田に、あなたの友人たちは「絶対あいつ下心ある」とあなたを心配している。

実際それは正しかった。

放課後に怯えながらやってきたあなたに権田は無理矢理体操服と時代ハズレのブルマを着せて、セックスを強要した。

泣きながらできないと言うあなたを、権田は無理矢理組み敷いて、強姦したのだ。

気の弱いあなたはそれを誰にも言えず、むしろ権田に写真を取られたせいで逃げられなくなり、呼び出されるたびに犯されることになってしまう。

しかし、あなたの身体は段々権田との性交に書き換えられていく。

放課後呼び出されるとすぐに着替えて、権田の言葉には逆らわず、尻を差し出すようになった。

大きな身体の権田を受け止めるのは初めは痛みを伴っていたが、今はもう気持ち良さしか感じない。

流石に言いはしないが、あなたはもう毎日でも犯されたいとすら思ってい

た。

「あっ…………♡」

「もう濡れているのか」

「は、はい…………♡」

足を開いたせいで見せつけるようになっていく割れ目を、権田がブルマ越しに撫でるとそこは既に湿っている。

あなたはそれをドキドキしながら受け入れていた。

「くそっ、こんなにエロく着やがって…………」

「あう…………♡」

「中はどうだ」

「きゃんっ♡」

割れ目を撫でた指はブルマを引っ掛け、横にずらした。下着は履いていな

いので、ブルマがズレればそこは露わになってしまう。

「ふん、準備はできているようだな」

「はいっ……♡」

ときんどきんと胸がうるさいが、あなたはじっと待つ。

いつもなら先に胸にご指導をされるけれど、今日はこっちが先なのかも。

そんなことを思っていたが、権田はジャージとトランクスを下ろした。

そしてぼろん、と飛び出た肉棒が膣口に当てられ、あなたはぎよっとする。

「せ、先生っ？ わ、私、まだっ……！！」

「もう濡れてるからいいだろ」

「あ、ま、だ、だめっ……！！」

まだ何もしていないのに、そんな、とあなたは慌てふためくが、抵抗虚しく、権田はあなたに覆い被さって、ぐ、と腰に力をこめてきた。

そして。

ズブツツ♡♡

「ふぁあっ♡♡♡」

慣らされていない膣に、権田の肉棒を挿入されてしまった。準備ができていないのは権田も同じようで、いつもとは違い、硬さもあまりない。

ブルマをずらされ露になった膣に男性器が刺さっているのが、裸でやるよりいやらしく目に映った。

ぢゅぷっ……♡♡ ぢゅぷっ♡♡ ばちゅっ♡♡ ばちゅッ♡♡ ばちゅんッ♡

「あ♡ま♡う、うそ♡うそ♡」

「は、とうとう即ハメもできるマンコになったか」

続

横暴教師に性的指導される体験版

2021年8月26日発行

♡どん丸／がら堂

♡Twitter：@donmar18